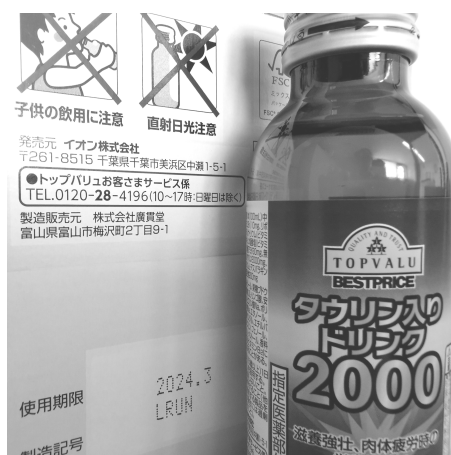


廣貫堂 配置業者には好感度を 経営体制には高感度を期待

(一社) 日本置き薬協会

テレビCMの影響で「配置薬と言えば富士薬品」と言われる昨今だが、だいたい遡るにせよ、それは廣貫堂であり、現在でも配置薬生産額の最大手メーカーである。ドラッグストア、スーパーマーケット業界にも縁があり、イオングループのトップバリュ商品「ファイトゴールド2000」は同社が納入している。先日、同社は令和3年3月期決算を発表され、下記に要点を纏めた。



総売上高	170億7200万円	前年同期比	-5.5%
営業利益	900万円	前年同期	4億5226万円
経常利益	2900万円	前年同期	3億9398万円
純利益	2000万円	前年同期	2億5525万円

部門別売上では

- 医薬品製造開発受託事業 90億2600万円 前年同期比+3.3%
一部製品の減はあるが既存受託品の生産増加や新たな受託品目の獲得
- ヘルスケア事業 45億1700万円 前年同期比-12.7%
コロナウィルス感染により主力製剤であるドリンク剤が落ち込み、
原料費や輸送費の高騰でコスト増

- 配置卸事業 18億7400万円 前年同期比+9.1%
配置直販事業子会社の売却により商品供給を他社へ一本化
- 配置販売事業 3億7400万円 前年同期 14億1271万円
配置直販事業会社の売却以前の売上計上
- その他の事業 12億7800万円 前年同期比+24.5%

6月23日総会開催後の取締役会において、塩井保彦社長が代表取締役会長に、同氏の長男の塩井貴晴氏（現最高執行役 経歴*1）が代表取締役社長に、副社長に中尾哲也氏（現事業戦略アドバイザー 経歴*2）と清水隆司氏（現品質・生産性向上担当取締役 経歴*3）が就任する。

*1 35歳、富山市出身、慶応大学環境情報学部卒業後、配置販社トキワ広貫堂(株)入社し翌年(株)廣貫堂入社、2013年に同社経営戦略室経営戦略グループ室長を皮切りに中枢部門で活躍

*2 三菱UFJ銀行経済協力部長、日本電産(株)海外事業管理部長、フィリピン日本電産(株)管理担当副社長等歴任、58歳、廣貫堂には今年5月入社 *3 元アステラスファーマテック(株)代表取締役

塩井保彦氏が2001年6月に社長に就任、配置販売市場の低迷を見据え、配置薬事業一本足からの脱却を目指して事業多角化を図り、20年を掛けてドラッグストア向けOEM事業や医薬品開発製造受託事業を成長させ、配置薬事業以外の売上で86.2%という事業体制に変貌させた。

しかし事業継承のこのタイミングで、新型コロナウイルス禍の波を受け脆弱な収益構造が露呈することになった。

配置販売業者からは配置薬の安定供給を続ける「好感度」企業となって貰いたい、ヘルスケア事業部門の建て直しが喫緊の問題であろう。また安定した売上が維持される医薬品開発支援受託(CDMO)事業への傾注が、新役員体制から窺える。新時代の「高感度」企業を期待するところだ。